



「幸せな地域づくり」のアイデアを出し合う地域座談会

複雑化する福祉課題と現状

孤独死や8050問題、ダブルケア、ヤングケアラー、子どもの貧困などの言葉を聞いたことはありますか。近年、社会的な課題として顕在化してきた福祉課題です。これらの課題は、どこにも相談できず、社会的な孤立に陥ることで、複雑・複合化し、本人だけでは解決が難しくなってしまう場合が多いのが現状です。本人が「困っている」と自ら声を上げられないとき、近所や地域がそれに気付き、相談先につなげるなどの方法が必要です。

6月に行った地域福祉に係るアンケート調査では、「近所や地域に気にかかる人がいますか」という質問に対し、約4分の1が「わからない」と回答。近所や地域の様子が把握されていない様子がうかがえます。一方、「近所の支援が必要な人への支援の考え」は、6割以上に支援する意向があることが分かりました。

地域共生社会の実現のためには、地域で生活する人たちの問題を「他人事」ではなく、「我が事」として捉え、気に掛けることが大切です。また、地域の中でさまざまな人たちが役割を持って活躍できる仕組みづくりも必要になります。

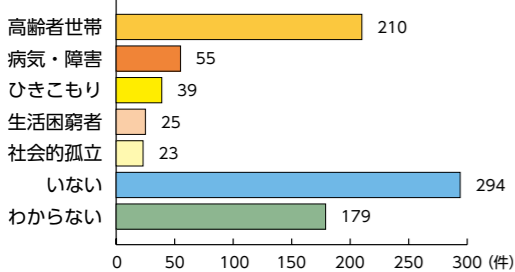
皆さんに聞きました！

皆さんの地域での地域福祉に対する考え方は？

出典：地域福祉計画・地域福祉活動計画策定に係るアンケート(令和3年6月)

Q 近所や地域に気にかかる人はいますか

(回答数合計:778件)

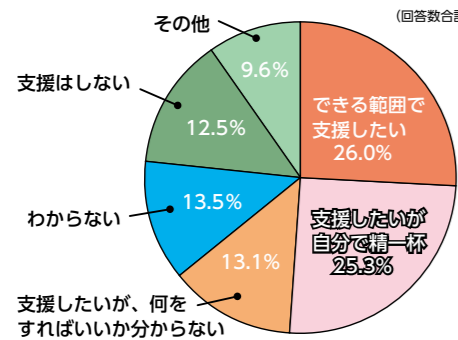


マンション住まいで地域の自治会などとのつながりがない

昔に比べ、他人のことを思いやる気持ちが少なくなったと思う

Q 近所の支援が必要な人への支援の考えは

(回答数合計:778件)

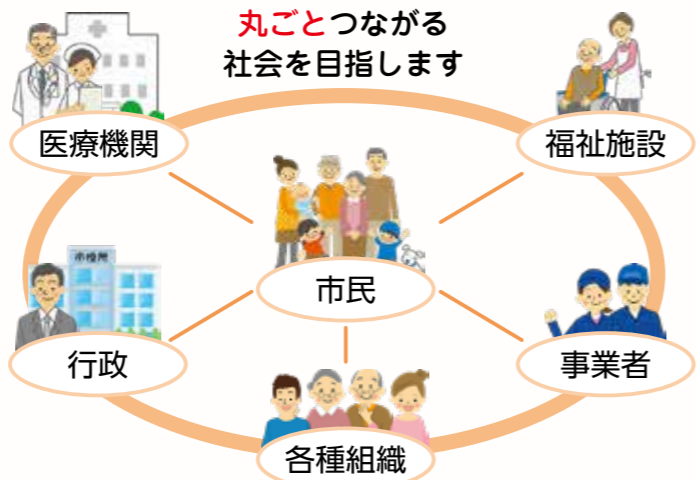


困っている人に手を差し伸べられる人が増えてほしい

近所に気にかかる人がいても、どこに相談して良いかわからない

地域共生社会とは？

さまざまな人たちの問題を「我が事」として受け止め、人と人、人と資源が世代や分野を超えて「丸ごと」つながり、年齢や性別、障害の有無などに関わらず、すべての人が孤立せず安心して、その人らしい生活を送ることができる社会です。地域共生社会の実現に向けて、地域でさまざまな取り組みが進められています。



特集

つながる人、つながる地域

家族や地域の支える力が低下している現在、新たな形で地域がつながり、人々が安心して暮らすことができる「地域共生社会」が求められています。今回は地域共生社会に向けて、地域で行われている取り組みを紹介します。

▶ 問い合わせ ☎社会福祉課 ☎0287(62)7031

「地域共生社会は、行政や専門の支援機関だけで実現できるものではありません。地域住民、福祉事業所、ボランティア、NPO法人などの地域で活躍するすべての人と人がつながることで、地域共生社会はつくられていきます。」

近年、地域における関係の希薄化により、社会的に孤立している人が増えています。また、社会構造や家族構造の多様化により、福祉課題が複雑化、複合化している人も増えています。身近に相談できる人がいない場合、専門の支援機関につながる事ができず、状況が悪化したり、さらに孤立を深めたり、生活が成り立たなくなることもあります。

このような複雑化した課題を持ち、「生きづらさ」を抱える人が、安心して暮らせる社会を目指すためには、これまでの対象者別の福祉制度では十分ではなく、多くの人や支援機関が関わられるような体制が必要です。本市では、地域の人と社会資源が世代や分野を超えてつながり、地域全体の力を高め、効果的に地域や支援機関とつながる「地域共生社会」の実現に向けた取り組みを進めています。